



異業種参入から トップクラスの生産農家へ



(株)貫光農園はるな山

代表取締役 吉田 典明 氏 (沼田支部所属)

Q & A

▼会社紹介

露地栽培での長ネギ生産・出荷を行っています。土木採石業を営んでいた父と、仲間の土木関係者数名で、二〇〇七年に創業した会社です。その頃は、国の政策で公共事業が減少し、土木事業者には苦しい時代背景がありました。そんな中、社員の雇用維持、中山間地の休耕地対策として異業種参入という形で野菜の生産を始めました。現在は農業事業に一本化しました。

社名の「貫光」は、トンネルが開通し光が差すという意味が込められており、土木事業から文字通り手探りで始めた創業の歴史にも由来しています。

▼自己紹介

大学進学のため東京し、卒業後は都内でインテリア関連の営業・販売の仕事に就きましたが、二十七歳の時に父が病に倒れ、群馬に戻り後継者として入社しました。結果的には入社半年後に父が他界してしまい、引き継ぎもできないまま二代目となりました。生産業務は従業員さんから教わり、経営業務は前職の経験を頼りに自己流で対応していました。

社長就任時点で創業から五年程度だったため、経営も軌道に乗っておらず、生産計画も技術もなく赤字に陥る悪循環に悩まされました。

そんな時に同友会の「経営指針をつくる会」を紹介され、入会を決意しました。つくる会では、先輩経営者の声を直接聞く



事ができ、単年度の黒字を目指す経営から、中長期を見据えた経営方針の必要性を学ぶことが出来ました。

▼イチオシPR

当社の長ネギは特別な品種ではありません。年間を通して

安定した品質の長ネギを出荷出来る体制に付加価値を見出しています。現在、長ネギ八ヘクター、年間三〇〇日程度の出荷体制を整えています。これは一社での取扱量としては県内トップクラスです。

標高七〇〇メートルから一五〇メートルの標高差をつけた複数の地域に畑を持つことで、社内での産地リレーを実現したことで、長ネギの品種も八ヘクターを使い分けることで周年出荷体制を確保しています。標高七〇〇メートルの寒暖差を耐え抜いた当社の秋冬の長ネギは、甘みが増し特にオススメです。

▼顧客や取引先からの反響は?

これまでは全量を市場に出荷していたので、価格が決められないジレンマがありました。しかし、生産体制の確立で安定した出荷量の確保が可能となり、販売先を契約出荷に全て切り替える事が出来ました。価格決定権があることに加えて「貫光農園はるな山のネギを売りたい」と言っていただけの顧客への販売が可能になったことが大きなポイントです。



ちなみに、当社の長ネギが店頭で買えるのは、県内では渋川市の「上州・村の駅」だけです。ぜひ食べて感想を聞かせてください。

▼課題と展望

安定供給を目指し「作付面積の拡大」に注力してきましたが、今後は「面積だけでなく効率よく量を確保する栽培」へのチャレンジを計画しています。その「挑戦」が、高品質な商品の提供や、社内省力化に繋がると考えています。農業はパートさんも含めて幅広い年齢層が働く業種です。より快適で省力化された職場環境の整備で、一人でも多くの「快適な雇用」を創出し、人・地域・時代に必要とされる農業を目指します。

〒858-1 下沢町中之条郡吾妻市 858-1
TEL 0279-26-3290